



謹賀新年



令和5年 年頭のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。
皆様には良い年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

理事長
江部 和人

2023年は、十二支の中で、4番目の兎の年に当たります。兎は穏やかで温厚な性質であることから「家内安全」、その飛躍する姿から「飛躍」「向上」を象徴するものとして、親しまれてきました。他にも「植物の成長」の意味もあり、新しいことに挑戦するのに最適な年と言われております。

さて、ワールドカップサッカーでは日本勢の「歴史的活躍」に興奮しました。国民上げての熱狂的な応援もあり、コロナ禍での朗報は広く勇気と希望を与えてくれ、称賛されました。

世界的には、ロシア軍のウクライナ侵攻による、世界的な食糧不足、燃料の高騰、経済の低迷をはじめ、図り知れない深刻な影響を及ぼしております。この様な燃料費電力の大幅な高騰の対策の一つとして、当院は屋上に、再生可能エネルギーの太陽光発電システムを整備いたします。クリーン電力の活用により、CO2の削減や職場環境、療養環境改善などにも取り組んでいきたいと考えます。

新型コロナウイルス感染症も発生から3年の月日が経過します。昨年は当院においても、院内感染が発生し、患者様、ご家族様には、多大なるご迷惑、ご心配をおかけした事を深くお詫び申し上げます。この冬はコロナ感染とインフルエンザの同時流行も懸念され、より一層の感染対策に努め、引き続きワクチン接種、発熱外来等、医療機関としての役割を果たしてまいります。今後も変異ウイルスとの戦いが続くものと考えられます。一日でも早く、制限のない生活環境に戻って欲しいものです。

本年の取り組みとしまして、ICTの促進の一環

として、昨年導入した電子カルテは順調に推移しております。今後は窓口業務での顔認証システムの導入が本年4月予定で開始されます。今後、効率的運用を行い、関係各部署、職員間の連携・情報共有を図り、患者さん、利用者さんへ引き続き、適切な「治療～退院・在宅支援」が出来るよう努めてまいります。

昨年11月には「ころはす小新」ユニット型ショートステイ29床に9床を増やし、38床として運用しております。ころはす「小針」「西蒲」「亀貝」「槇尾」「五十嵐」「小新」及び2箇所訪問看護(リハビリ)ステーション、医療・介護・福祉事業が地域関係機関と連携、協働して利用者のニーズをしっかりと捉え、事業の安定運用を継続的に行ってまいります。

新型コロナウイルス感染症拡大は医療業界のあり方においても転換期となり、医療従事者の働き方改革、地域医療構想と当該医療事業のあり方が問われる時期が迫ってきております。

今後も、医療提供体制並びに環境は大きく変化するものと予測され、地域の方々が、安心、安全な生活ができる支援体制の構築が必須です。本年も基本理念「地域のオアシスを目指します」に則り、地域の方々から求められる病院として、堅実に向上を目指します。

皆様にとりまして、争いを好まず、景気も跳ね上がる縁起の良い兎の年になりますことをご折念申し上げ年頭の挨拶と致します。



※ 太陽光発電システムについて

持続可能な開発目標(SDGs)に賛同し、自家消費電力を導入いたします。クリーン電力の活用によるCO2削減、地域環境貢献による社会的責任、職場環境改善、人材育成等を考慮し(ESG:環境・社会・企業統治)本年1月よりの稼働を予定しております。



屋上に設置された太陽光発電システム